



「お天気まるわかり BOOK」

山内豊太郎 監修

成美堂出版, 2004年7月, 157頁

定価900円 (本体価格)

ISBN 4-415-02631-1

子どもの理科離れ, 学力低下が言われて久しい。2004年12月には国際教育到達度評価学会による調査結果が発表され, 新聞等で大きく報じられた。この中で, 特に問題としなければならないのは国別の順位ではなく, 次の点と考える: 1) 「理科の勉強が強く楽しい」と思う中学2年生の割合は19パーセントで, 国際平均値より25ポイント低い; 2) 「理科の勉強への積極性」が高いレベルの中学2年生の割合は17パーセントで, 国際平均値より40ポイント低い。学力低下を理科の授業時間数不足と結びつける論調が多いが, 子どもの意欲・関心を高める授業のあり方や内容を検討する方が先決であろう。特に, 気象は身近であるから, 子どもたちに科学への関心を向けさせる第一歩となり得る可能性を大いに秘めている。

ここで紹介する図書は小学校高学年の調べ学習や自由研究に役立つことを意図したものである。本書は次の章立てになっている:

- 第1章 色や形でわかる天気の見かた
- 第2章 天気図をつくってみよう
- 第3章 天気ふしぎQ & A (よくあるぎもん編)
- 第4章 天気ふしぎQ & A (もっと知りたい編)
- 第5章 天気ふしぎQ & A (異常気象編)
- 第6章 天気の調べガイド

1章では, 昼と夜, 空の色, 雲や雨の生成などが扱われている。2章では, 天気図の見かた・書き方や天気予報の仕組みが書かれている。3章~5章では, 虹や台風, 雪など子どもが良く持つ疑問, 昆虫の多い季

節や流水, 海陸風などに関する疑問, ヒートアイランドや温暖化, 酸性雨などに対する疑問に関する回答がそれぞれ取り上げられている。

各項目は見開き2ページからなり, 説明と実験, 課題例が示されている。例えば, 「なぜにじができるの?」では, 「にじができるしくみ」, 「2つめの虹」, 「太陽や月の光のかさ」の説明及び「にじをつくってみよう」の実験, 「調べてみよう」からなる。「調べてみよう」には「太陽が高くなる真夏ににじができないわけを考えてみよう」, 「シャボン玉がにじ色に光るわけを調べてみよう」という課題が示されている。6章では, 図書館やインターネットなどを用いた調べ方やまとめ方, 気象観測の歴史, 天気や季節を表わす言葉などがまとめられている。

カラーイラスト, 写真が全ページでふんだんに使われており, 見やすい構成となっている。子どもには, 楽しく読むことができる本と思われる。しかも, 千円札一枚でお釣りが来て, コストパフォーマンスは非常に高い。ただ, 上記の課題にも見られるように, 小学生には相当難しい内容も多い。この点を小学校の先生にお伺いしたところ, 興味を持った子どもには良いのではという意見であった。また, 説明に幾つかの不備がある。たとえば, 霜は水滴が凍ってできる, 窒素酸化物(NO_x)が雲にとけ込むなどと記述したり, 高いところで気温が低いことを断熱冷却のみで説明したりしている。

ここで紹介した本を含めて, 本屋・図書館で子ども向けの気象関連図書を是非一度ご覧になってください。さらに, 気に入ったものをお子さんやお孫さん……にプレゼントして, 反応を調べてみましょう。一市民として, 次代を担う子どもたちの気象教育, ひいては科学教育の有り様に少しでも目を向けて頂ければ幸いです。

(北海道教育大学教育実践総合センター 高橋庸哉)